

苦い思いの青春時代

自分を持って余っていた青春時代。やんちゃな日々を送り、入学した定時制高校も仕事と両立しきれず半年ほどで辞めた。もめ事をくり返して職場を転々とし、やがて父が営む電気工事の仕事を手伝うようになった。しかし、資格も経験もない身でできるのは雑用ばかり。自分が、社会で何の役にも立たないことを突き付けられた。一念発起して電気工事士の資格を取り、夢中で仕事を覚えていった。

「おもしろい！」と仕事の魅力にめざめた頃、多少やっかみも加わった「二代目」「後継ぎ」という周囲の声が耳障りになった。同時に初めて「経営」に関心を抱いた。自分が加わり仕事も増えたこの数年で、会社はいぶん楽になったはずと、初めて父に帳簿を見せてもらった。

しかし利益はほとんど出ていなかった。「あんなに頑張ったのに？」。仕事量に比例しない利益の少なさに驚き、職人気質の父のやり方に疑問を抱いた。もつ

と営業して仕事を増やそうと仕事先で懸命に声をかけた。やがて知人の会社を任されることになった父に代わり、会社の舵取りを担うことになった。

必死な中で射した光

数年間、父に代わって経営を担ったものの、結果は惨敗であった。仕事は増えても利益は残らず、資金繰りに追われた。何がいけないのか見当がつかない。困り果て、父に会社へ戻ってもらった。残ったのは、悔しさだけ。あらためて、やんちゃ時代からあこがれていた先輩経営者に「経営を教えて欲しい」と頼み込み、自分の身の振り方を考えた。父ともう一度会社を立て直すか、裸一貫独立するか。そして後者を選ぶ。

とは言え、まさに無一文からのスタート。2人目の子どもも生まれていたが、食べるのにも苦勞し、妻にはずいぶん苦勞をかけた。現場も営業も経理もすべて一人でこなし、父には一切頼らず取引先も一から開拓した。何軒飛び込んでも門前払い

の日々が続いた。

ある日、個人宅で電球数個を交換して数千円を手にした瞬間、ビジネスの原点に気づいた。コツコツと誠実に仕事をするうちに、紹介も少しずつ増えていった。昼は一人で他社の仕事を手伝い、夜は腕のいい仲間を集めて経験を積む。やがて何人も先輩経営者が、応援してくれるようになっていった。「きみのまわりには人が集まる」「みんな若くて活気がある」「誰かが必ず見ているから、頑張れ」。そんな声が増えていった。

ようやく仕事が軌道に乗り始めたころ、信頼する先輩経営者が「電気工事の世界で生きていきたいなら、第一人者に会え」と、ある人を紹介してくれた。

先輩経営者に学ぶ

それは地元でも名の知れた同業企業の、尊敬する社長であった。さっそくひと月後には、「やってみないか」とかつて経験したことがない大きな案件を任せられた。まさに正念場。必死で取り組み、無事にやり遂げた。この社長から学ぶことは多

く、テナントや工場など収益物件を増やして会社の基盤を強化することにも挑戦し始めた。物件を通じて、内装や建築など関連分野の知識やノウハウ・人脈が広がる。単に収益だけではなく、次なる可能性をもたらす未来への投資だ。

「これからは次世代の若手へ、先輩方に教わった経営の知見をつなぎたい」と、安原祐太郎社長。今年30歳になる安原社長が20代で苦勞して得た学びは、着実に仲間や後輩へ伝わり始めている。苦勞をかけた妻、またこの道につないでくれた父への感謝も忘れない。

「信頼する仲間と組織の枠を越えてつながり、結果を残す。自分だけではなく、みんなで良くなるような仕事をします」

既成概念にとらわれず、自由に羽ばたく若きリーダー。現在、知人に請われ、内装工事を手掛ける株式会社フクダテクノス（兼建グループ）の執行役員も兼務している。10年後、さらに影響力を増した安原社長が北九州の経済を担っている姿が目



信頼の絆からビジネスを生み 独自の経営戦略で着実な成長を続ける

株式会社 F I R S T

「一番を目指す」というストレートな思いを社名に冠して、スタートした。その会社設立初年度に、誠実な仕事ぶりとめざましい行動力で前年対比5倍の売り上げを築いた若きリーダーがいる。先輩経営者に学び、信頼できる仲間とともに成長するその姿に、未来への期待が広がる。

- 所在地 / 〒 802-0065 北九州市小倉北区三萩野 2-1-6 津田第六ビル 1 階
- 代表者 / 安原 祐太郎 ●電話 / 093-980-4721 ●設立 / 平成 30 年 7 月
- URL / <http://first-com.co.jp/> ●業 種 / 動力配線・通信・空調・各種電気工事など